

DSD 再生のチャレンジ(10)
—192KHz24bit WAV から 256sDSD への変換(3)—

1. 始めに

前報(9)では BS 録画の micro iDSD 経由の 192 KHz 24bit WAV 録音を行いました、今回は MYTEK DIGITAL192-DSD に替えて実施しました。

2. MYTEK DIGITAL192-DSD 経由の 192 KHz 24bit WA 録音と DSD 変換再生の方法

元音源は BS 放送の録画とし録音ルートは下記のとおりとします。

BZT-9000→CCV-5 (96KHz) →MYTEK DIGITAL192-DSD (192KHz) →
DA-3000 (192KHz)

ここで、CCV-5にはGPS-777から96KHzのクロックを、MYTEK DIGITAL192-DSDにはGPS-777から192KHzクロックを、DA-3000にはGPS-777から192KHzのクロックを供給します。DA-3000の録音条件は192 KHz 24bit WAVに設定しています。

PC オーディオでの試聴ルートは下記のとおりとします。再生ソフトはHQPlayer Desktop 3 ASIO を使用して、micro iDSD に 256sDSD で送り出しています。

PC→micro iDSD→DA-3000 (44.1 KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD
(DA-3000 よりクロック供給)

ここで、DA-3000にはABS-7777から44.1 KHzのクロックを供給します。PCとmicro iDSDはUSBリベラメンテ1.3mで接続しています。

192 KHz 24bit WAV音源は外付けHDDに収納しており、PCとはUSBリベラメンテ1.3mで接続しています。

Buffalo 製 HD-LSU2D→PC

3. MYTEK DIGITAL192-DSD 経由の 192 KHz 24bit WA 録音と DSD 変換再生の結果

DA-3000にGPS-777からクロックをいれた条件でMYTEK DIGITAL192-DSD で 192 KHz 24bit WAV録音したことは今回も効果があり、以前のDR-100の96 KHz 24bit WAV録音より透明度、解像度などがアップしました。

前報(8)のSWD-DA10経由の録音、前報(9)のmicro iDSD経由の録音と今回のMYTEK DIGITAL192-DSDの録音を比較しますと、それぞれのS/PDIF入力のDAC間の音質にそれほど大きな差がなく、結果的にDA-3000で192 KHzのクロック入力が効いて

平準化しているものと思われます。しかしながらじっくり聴きこんでいきますと、高域が華やかですっきり系のSWD-DA10、適度に湿度感のあるmicro iDSD、切れ込みの良いMYTEK DIGITAL192-DSDということの違いが感じられます。

なお、192 KHz 24bit WAVをリアルタイム変換して256sDSDで送り出していますとたまに音切れが発生することがあり、タスクマネージャーで調べてみますとバックでWindowのタスクが発生していますので、それが終わるのを待つか、128sDSDの送り出しにすることが必要となります。

4. まとめ

DA-3000にGPS-777からクロックをいれた条件でMYTEK DIGITAL192-DSD経由で192 KHz 24bit WAV録音したことは効果がありました。DAC間の音の差はそれほど大きくはありませんでしたが、ちょっとした違いは好みで選択ということになります。

以上